

探究型学習による新しい商業教育

クエストエデュケーションプログラム実践報告

埼玉県立新座総合技術高等学校教諭 小林 宏

1. はじめに

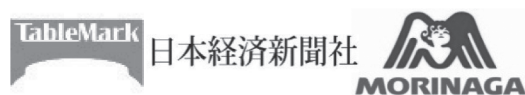
本校の国際ビジネス科が「クエストエデュケーションプログラム」（前身の「日経エデュケーションプログラム」を含む）を導入して、8年が経とうとしている。このプログラムは今では国際ビジネス科の特色の大きな柱になっており、3年次にこれに取り組むことを楽しみにしている生徒も多い。

2. クエストエデュケーションプログラムとは

クエストエデュケーションプログラムとは、株式会社教育と探求社が開発・提供している学習プログラムで、全国の様々な中学校・高校・大学で導入されている。現実社会と連動しながら「生きる力」を育む学習プログラムで、「企業探求コース（コーポレートアクセスコース）」と「進路探求コース（ロールモデルコース）」の2つがある。

「企業探求コース（コーポレートアクセスコース）」は、実在する企業のインターンシップを教室で体験するもので、フィールドワークやアンケート調査でその企業について学んだり、企業から出されるミッション（課題）に取り組んだりする。

平成 23 年度のインターンシップ先の企業



「進路探求コース（ロールモデルコース）」は、日本経済新聞社のコラム『私の履歴書』を読み、先人達の軌跡をたどるもので、先人の「人物ドキュメン

これまでのインターンシップ先の企業

平成 16 年度	NTTドコモ, MPA, 関西電力, コナミ 積水化学工業, 日産自動車, 野村證券
平成 17 年度	NTTドコモ, コナミ, 積水化学工業 全日空, 日産自動車, 野村證券, 日立製作所
平成 18 年度	積水化学工業, 全日空, 日産自動車 野村證券, 日立製作所, 吉野家
平成 19 年度	クレディセゾン, 全日空, 大和ハウス 野村證券, 日立製作所, 良品計画
平成 20 年度	クレディセゾン, 大和ハウス, 野村證券 TOKYO FM, 日立製作所, 良品計画
平成 21 年度	スカパー J SAT, 大和ハウス, 良品計画 TOKYO FM, 日立製作所, 森永製菓
平成 22 年度	クレディセゾン, スカパー J SAT, 良品計画 大和ハウス, 日本コカコーラ, 森永製菓
平成 23 年度	クレディセゾン, スカパー J SAT, 森永製菓 大和ハウス, テーブルマーク, 日本経済新聞社

タリー作品」を制作したり、自分自身の過去と未来の『私の履歴書』を作成したりする。

『私の履歴書』の人物（ロールモデル）は13名いる。その中には、日清食品創業者の安藤百福、ヤマト運輸元社長の小倉昌男、本田技研工業創業者の本田宗一郎などがおり、ビジネスの学習にも役立つと思われる。

また、毎年、2月下旬に「クエストカップ全国大会」が開催される。「企業プレゼンテーション」部門、「人物ドキュメンタリー」部門、「自分史」部門の3部門があり、全国から選ばれた生徒達が企業の方々と各分野の専門家などの前でプレゼンテーションを行う。今年度も、平成24年2月25日（土）に法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて、「日本の未来をここからつくる！」という大会テーマで開催される。



3. 企業探求コース

(コーポレートアクセスコース) の特徴

コースは24ステップで構成されており、次のような流れになっている。1ステップを1回の授業、合計約24回の授業で実施する。

SECTION 1	活動の準備をする
STEP 1	オリエンテーションを受ける
STEP 2	自分の仕事意識を知る
STEP 3	インターンの募集を見る
STEP 4	企業にエントリーする
STEP 5	新人研修に取り組む
STEP 6	課題を報告する
SECTION 2	会社の仕事をする
STEP 7	仕事を始める
STEP 8	アンケート調査に取り組む
STEP 9	調査レポートを書く
STEP 10	調査結果を報告する
STEP 11	合同研修を受ける
STEP 12	ミッションを受け取る
SECTION 3	ミッションに取り組む
STEP 13	企画会議を開く
STEP 14	情報を収集する
STEP 15	企画案を決定する
STEP 16	企画案を報告する
STEP 17	プランを作る 1
STEP 18	プランを作る 2
SECTION 4	プレゼンテーションをする
STEP 19	プレゼンテーション研修を受ける
STEP 20	プレゼンテーションの準備をする 1
STEP 21	プレゼンテーションの準備をする 2
STEP 22	プレゼンテーションを行う 1
STEP 23	プレゼンテーションを行う 2
STEP 24	すべての活動を振り返る

教材には、ワークブックやインターネット教材「エデュカネット」がある。

ワークブックは、一人一人の個性的な学びを応援するという趣旨で、40種類の表紙があり、それを

初めて手にした時、生徒達はとても感動し、大いに盛り上がる。

インターネット教材「エデュカネット」では、かわいらしいキャラクターが出てくるアニメーションや、企業の方々が出てくる実写の動画教材を見ることができる。また、この動画には、このコースのご意見番である一橋大学イノベーション研究センター長の米倉誠一郎教授が登場し、生徒達の心に残る熱いアドバイスをしてくれる。また、企業の方々に直接質問することができる機能もあり、全国の生徒達が積極的に企業の方々とコミュニケーションを取っている。



前半のステップでは、インターンシップ先の企業について学習する。フィールドワークやアンケート調査などに取り組み、事業内容、社会における役割、企業文化などについて学ぶ。インターネットで調べるだけでなく、教室を飛び出し、街に出て、それぞれの企業の商品を探したり、店舗で働く方々にインタビューしたり、街頭で一般の方々にアンケート調査を実施したりする中で、生徒達は自分の企業について多くのことを知り、様々なことを感じる。そして、その企業のインターンであることをより強く自覚するようになる。

後半はそれぞれの企業から出されるミッション(課題)に取り組む。情報を集め、チームで話し合いながらプランを完成させ、プレゼンテーションを行う。このミッションでは、それぞれの企業がその時々本気で考えていることや取り組んでいることが出されている。



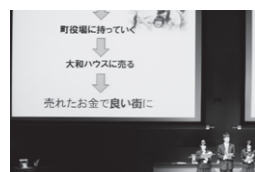
ワークブック

平成 23 年度の各企業からのミッション（課題）

- ・クレディセゾン
「日本の未来をここからつくる
世代を越えて生きたお金が回りだす
あっと驚くポイントサービスを提案せよ！」
- ・スカパー J S A T
「日本の未来をここからつくる
心から信じられる仲間が 100 人出来る
スカパーの新サービスを提案せよ！」
- ・大和ハウス
「日本の未来をここからつくる
人が集い、遊び、つながる
100 年続くまちづくり計画を提案せよ！」
- ・テーブルマーク
「日本の未来をここからつくる
“大切な人” をテーマにした
テーブルマークの広告企画を提案せよ！」
- ・日本経済新聞社
「日本の未来をここからつくる
読むことで世界が変わる
10 年後の日経電子版を提案せよ！」
- ・森永製菓
「日本の未来をここからつくる
何気ない毎日にキラメキをもたらし
お菓子のキャンペーン企画を提案せよ！」

STEP 13 では、ブレインストーミングという話し合いの方法を学び、チームでアイデアを出していく。互いの意見を批判しないというルールの下、自由に活発な話し合いが繰り広げられる。また、このブレインストーミングの授業には、企業の方々が参加して下さることもある。生徒が出したアイデアを承認して下さったり、質問に答えて下さったりして、生徒達はとても喜び、さらにモチベーションを上げる。

クエストカップ全国大会に出場できたチームは、企業の方々の前でプレゼンテーションを行う。時には、社長の前でプレゼンすることもある。ステップアップした場でのプレゼンを経験し、生徒達はさらに大きく成長する。



4. 本校や埼玉県での取り組み

本校は、平成 16 年度に、このプログラムの前身である「日経エデュケーションプログラム」を導入した。これは日本経済新聞社教育開発室が開発した学習プログラムで、経済産業省の「起業家教育促進事業」に導入されたものの一つであった。埼玉県がこの事業に参加し、本校をはじめ、いくつかの高校が実施することになった。平成 18 年度からは、埼玉県は「明日の埼玉を創る 渋沢スピリッツ人材育成事業」などの独自の事業を展開し、商業に関する学科やコースが設置されている高校で、このプログラムを実施した。最も多い年には、本校を含めた 13 校が実施していた。これらの高校は、これまで、国や県の予算により、このプログラムを実施することができていた。しかし、今年度からは費用の一部を生徒が自己負担している。

本校では、3 年次の課題研究の授業で、「企業探求コース（コーポレートアクセスコース）」を導入している。この授業は 3 単位で、国際ビジネス科 3 年生約 80 名を対象に、6 名の教員で年間を通して実施している。年間で約 70～80 回と、他の学校に比べ、多くの授業時数を使っている。

4 月に、3～4 名の男女混合チームを作り、このプログラムを開始する。ほとんどの生徒は楽しく、前向きに取り組んでいる。ブレインストーミングの授業では、とても活発に話し合い、アイデアを書いた付箋を数百枚も出すチームもある。また、校外へ出かけ、駅前でアンケート調査を実施したり、店舗や工場などでフィールドワークしたりするチームも多い。もちろん、中には、停滞したり、失敗したりするチームもあるが、このプログラムでは教員は「ファシリテーター」と位置付けられているので、「支援はするが答えは教えない」というスタンスを保ち、見守ったり、アドバイスしたりしている。

毎年、1 月に「課題研究発表会」という名で、このプログラムの校内発表会を開催している。2 日間続けて午後の 3 時間の授業を使い、インターンシップ先の企業の方々・教職員・保護者・下級生などの

前でプレゼンテーションを行う。生徒達にとっては、「卒業」発表会という色合いが強く、寸劇・紙芝居・模型などを取り入れた意気込み溢れるプレゼンが多く、とても盛り上がる。プレゼンを終えた生徒達は達成感と自信に満ち溢れたとても良い顔をする。



クエストカップ全国大会には、毎年、本校から数チームが出場させていただいている。平成 18 年度には、積水化学工業のチームが「卵の家」という企画でグランプリ（最優秀賞）を受賞した。そのチームをはじめ、これまで、本校のいくつかのチームが NHK やテレビ東京のニュース番組、日本経済新聞などで紹介された。

本校のクエストカップ全国大会出場チームと受賞歴

平成 16 年度	コナミ 関西電力
平成 17 年度	全日空（企業賞を受賞） 日産自動車 野村證券 コナミ
平成 18 年度	積水化学工業（グランプリを受賞） 日産自動車
平成 19 年度	クレディセゾン 野村證券 日立製作所
平成 20 年度	ダイワハウス 良品計画
平成 21 年度	大和ハウス（企業賞を受賞） 日立製作所（審査員特別賞を受賞）
平成 22 年度	大和ハウス（企業賞を受賞）

埼玉県も、このプログラム実施のために、費用面だけでなく、様々な支援をしてくれている。

例えば、1～2 月頃に、このプログラムを実施している県立学校の作品発表会を開催している。各学校の代表チームが、インターンシップ先の企業の方々、県内の産業界や教育界の方々などの前でプレゼンテーションを行う。今年度も、2012 年 1 月 17 日（火）にさいたま市の市民会館おおみやで開催された。

また、教員の民間企業等派遣研修において、教育

と探求社に教員を 1 年間派遣し、新しい教育手法などを学ばせている。

5. プログラムの効果

簿記や情報処理などの資格取得を目標とした授業では、生徒達は受け身になることが多い。それに対し、このプログラムでは、主体性・自主性・創造性などを育成することができる。また、チームワークやコミュニケーション能力を身に付けさせることもできる。

また、商業の様々な科目でこれまで学んできた知識や技術を実践することができる。例えば、エクセルやパワーポイントなどの操作技術、マーケティングで学んだ知識などを活用することができる。

さらに、このプログラムでの実績を、大学の AO 入試や就職試験などに活かすことができる。本校では 3 年次の授業で導入しているので難しいが、1・2 年次でこのプログラムに取り組み、クエストカップ全国大会などで実績を残すことができれば、それを活かし、AO 入試で大学に合格することも可能であろう。

また、生徒だけでなく、教員もこのプログラムから多くのことを学ぶことができる。私も、このプログラムを通して、探究型学習やファシリテーションなどの手法やポイントを学び、ビジネス基礎や国際ビジネスなどの他の授業に取り入れている。

6. おわりに

クエストエデュケーションプログラムは商業教育のためのプログラムではない。しかし、本校などの埼玉県の商業高校だけでなく、三重県立名張高校・三重県立松阪商業高校・長野県立上田千曲高校・東京都立第五商業高校・京都市立西京高校など、全国の様々な商業に関する高校で活用されている。今後、さらに多くの商業高校がこのプログラムのような探究型学習を実施し、生徒達の主体性・創造性・自主性・チームワーク・コミュニケーション能力などを育成できればよいと感じている。